

令和 6 年 度

(自 令和 6 年 4 月 1 日～至 令和 7 年 3 月 31 日)

事 業 報 告 書

公益財団法人 京都国際学生の家

事業報告書

当法人は、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び霊性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」（定款第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。開館以来60年間に、寮生用34室を利用した寮生は世界の83ヶ国から1115名、併設されている研究員用6室を利用した学者、研究者は96ヶ国から3118名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

半世紀が過ぎ、建物は老朽化し、耐震補強や電気・水道などを改修する「本館の耐震改修」と「研究者棟の建て替え」に直面し、建物の建て替えも踏まえた、当財団の将来のあり方を検討して、当財団の建物の耐震・改修工事、新研究者棟の建築を計画し、第1期改修工事として、耐震補強工事と老朽化したガス管の更新を実施した（2020年6月完了）。また、第2期新築工事として研究者棟の建設を検討している。

学寮の維持運営と留学生のための各種行事活動を実施してゆくには、広く各方面の理解ある援助を仰ぎ必要財源を補って行かねばならない。経常的に後援会員、有志個人及び団体から財政的援助をうけている。法人の運営に当たって、こうした理解ある援助は、財政的、精神的両面から大きな支えとなり、活動資金を活用して、活発的な国際交流事業を展開している。

I. 事業の概況

1) 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

(1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	6 室	研究者用にはツインルーム 1 室あり

(2) 利用状況

○学生の部（令和 6 年 4 月より令和 7 年 3 月）

国 別	人 員	研 究 機 関 別	人 員
日本	17	京都大学	27
中国	3	同志社大学	4
ドイツ	2	立命館大学	2
タイ	2	NCC	2
インドネシア	2	京都府立医科大学	1
イギリス	2	京都産業大学	1
香港	1	京都外国語専門学校	1
ポーランド	1	ARC Language School	1
ペルー	1	合 計	39
ベトナム	1		
フランス	1		
バングラデシュ	1		
スウェーデン	1		
エジプト	1		
インド	1		
アルゼンチン	1		
アメリカ	1		
合 計	39		

○研究者・学者の部

中国	3
アメリカ	2
イタリア	1
ウガンダ	1
スイス	1
スウェーデン	1
ドイツ	1
フランス	1
ロシア	1
台湾	1
日本	1
合 計	14

(3) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、一 가족が、ハウスペアレント（学寮管理者）として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たっている。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会（ハウスコミッティー）が組織され、活動している。

(4) 行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。このような相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。

各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事（当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など）を分担させている。また、一緒に食

事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備（共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード等）を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

① 月間定例行事

○ほぼ月に2回 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に1回 コモン・ミール（夕食会）

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のこと、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であると考えている。皆と一緒に「会食をする」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることでできる行為だと私たちは考えて行っている。

○ほぼ月に1回 ハウス・ミーティング

コモンミールの後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。

② 年間定例行事

○新入生歓迎会：令和6年4月5日（金）、令和6年10月4日（金）

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウスコミッティの委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行なわれた。

○国際食べ物祭り・感謝祭：令和6年12月8日（日）

国際食べ物祭りは、「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国留学生のお国自慢の料理を、HdB 周辺の住民の皆さんや、寄附をして下さった方々や友人を招待して、食を通じ寮の雰囲気や世界を実感してもらう定例行事。本年度は、例年「感謝祭」として感謝の気持ちと学寮が多くの人達の善意で成立していることを理解する定例行事と合同に開催された。

○セミナー：

市民公開講座：令和 6 年 6 月 29 日（土）

- ・大菅 克知（医師）「すべてはスーダンから始まった-途上国の保健医療にたずさわって-」
- ・ヴァンオメン・マティアス（同志社大学社会学部社会学科助教）「From Mario to Siebold: How Japanese Video Games Culture Guided Me to Kyoto：マリオからシーボルトへ- 日本ゲームカルチャーの京都への導き-」
- ・寮生 3 人（外国人留学生と日本人学生）「HdB の過去、現在、未来」
- ・川野家稔（OM1 期生、元日立製作所・情報通信事業部副技師長）「京都国際学生の家(HdB)在寮記」

○トリップ：令和 6 年 6 月 8 日（土）

6 月には寮生・ハウスペアレンツで神戸へ日帰りで旅行を行った。神戸海洋博物館、神戸ポートタワー、須磨浦山上遊園、舞子を訪れ、過去・現代の日本の文化・歴史に触れた。寮生たちはレクリエーションとして旅行を楽しんだ。

○クリーニング・デイ：令和 6 年 8 月 3 日（土）、令和 7 年 2 月 9 日（日）

年に 2 度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、応接室、洗濯室、キッチンなどを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

○消防・避難訓練：令和 6 年 10 月 5 日（土）

左京消防署の方に協力してもらい、火災時、地震発生時の際の注意喚起と消

防・避難訓練を行った。

③ 図書の刊行頒布

会誌等の刊行：「2024 年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布し、学寮の活動を理解して頂く出版物である。700 部発行した。本年も第 6 回市民公開講座を特集にして、学生文集も兼ねて発行した。

2) 不動産等の管理と運営

行事・活動：

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。

区画数 27 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。

Ⅱ. 庶務の概要

1) 役員

理事長	内 海 博 司	京都大学名誉教授
常務理事	吉 川 晃 史	関西学院大学教授、公認会計士 (~2024.8)
	吉 村 一 良	京都大学名誉教授 (2024.8~)
	永 井 千 秋	元（公財）新産業創造研究機構 事務局長 (2024.8~)
理事	中久木 卓 也	ハウスファザー 京都桂病院脳卒中センター長 兼 脳神経外科 部長
	上 村 多恵子	京南倉庫（株）代表取締役社長
	嘉 田 良 平	総合地球環境学研究所 名誉教授
	RUSTERHOLZ Andreas	関西学院大学文学部教授
	永 井 千 秋	元（公財）新産業創造研究機構

		事務局長(～2024.8)
	吉 村 一 良	京都大学名誉教授(～2024.8)
監事	浅 田 拓 史	大阪経済大学教授、公認会計士
	折 田 泰 宏	弁護士
	秋 津 元 輝	京都大学教授
学寮運営委員長	山 田 祐 仁	学校法人辻料理学館
学寮運営委員	坂 口 貴 司	三菱電機（株）
	TANANGONAN Jean	近畿大学講師
	DAVIS Peter	テレコグニックス CEO
	松 橋 眞 生	京都大学准教授
	長谷川 眞 人	京都大学教授
	北 島 薫	京都大学教授
	笹 山 忠 則	大阪府立大学名誉教授、 寿テレコム放送舎（非営利）代表
	Naresh Bedi	元ハウスファザー
	Joseph A. Phillips	元ハウスファザー
	前川 佳世子	元ハウスマザー
	山 本 慶 一	元ハウスファザー
	長谷川 晶	学校法人京都情報学園 国際渉外部部長
	中久木 卓 也	ハウスファザー
	中久木 裕 子	ハウスマザー
	CHAIRPERSON of TEAM	
	VICE CHAIRPERSON of TEAM	
2) 評議員	吉 田 和 男	京都大学名誉教授
	山 田 祐 仁	学校法人辻料理学館
	平 野 克 己	日本塗装機械工業会専務理事 (～2024.10)
	村 田 翼 夫	筑波大学名誉教授
	深 海 八 郎	眺八海倶楽部総支配人

山 本 慶 一 元ハウスファザー
(2025.1~)

3) 顧 問

所 久 雄 社会福祉法人
京都国際社会福祉協力会理事長

平 松 幸 三 京都大学名誉教授

森 棟 公 夫 相山女学園大学教授

岩 崎 隆 二 和晃技研(株)代表取締役社長

諏 訪 共 香 日本語教師

西 尾 英之助 京都日独協会会長

中 島 理一郎 元同志社大学教授

薦 田 正 人 薦田内外国特許事務所代表

4) 職 員

氏 名	担 当 事 務	備 考
奥 田 彩 耀	法人事務及び経理事務等	(2024.8~休職中)
吉 竹 慶 一	学寮の維持管理（学寮外周り）	
樋 口 洋 子	法人事務及び経理事務等	(~2024.8)
福 智 雅 代	法人事務及び経理事務等	(2024.12~)

5) 後援会員 （詳細についてはイヤーブックに記載。）

法人会員 10

個人会員 50

OM会員 1020

6) 理事会

回・年 月 日	議 題	結 果
第 37 回 令和 6. 5. 19	1. 第 36 回理事会議事録の承認の件 2. 令和 5 年度事業報告の件 3. 令和 5 年度決算報告の件 4. HdB 将来構想の件 5. 規程の改正について 6. 修繕計画、保全委員会の今後について	承認 承認 承認 承認 継続審議 承認
第 38 回 令和 6. 8. 3	1. ハウスペアレントからの辞任の申し出について 2. コモンミールゲスト参加費・IFF バザー収入の会計処理について	継続審議 継続審議
第 39 回 令和 6. 8. 23	1. 会計担当常務理事の選任について 2. 庶務担当常務理事の選任について 協議事項 1. 会計監査の導入提案 2. 学生バイトの雇用提案 3. オフィス業務、ペアレント業務の文書化について 4. オフィス業務（入寮希望者の日程調整）引き継ぎ	承認 承認
第 40 回 令和 7. 1. 25	1. 第 38 回と第 39 回議事録案の承認 2. パワーハラスメント（パワハラ）問題の対応について 協議事項 1. くろ谷（金戒光明寺）との契約更新につ	承認 承認

	いて	
第 41 回 令和 7. 2. 10	1. ハラスメント問題について	承認
第 42 回 令和 7. 2. 10	1. 中久木ハウスペアレントからのハラスメント申し立てについて	承認
第 43 回 令和 7. 3. 23	1. 第 40 回、41 回、42 回議事録案の承認について	承認
	2. 令和 7 年度事業計画案について	承認
	3. 令和 7 年度予算案について	承認
	4. 評議員会の日程について	承認

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品（使途指定なし）

寄附者（敬称略・順不同）：財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。 和晃技研(株) 岩崎 隆二、有限会社ハイナン 代表取締役 土屋俊宏、社会福祉法人サン・アス会 理事長 吉川昭一、ボーイスカウト京都 第 42 団 谷口 平八朗、国際ソロプチミスト 京都たちばな、HEINRICH REINFRIED、ケヴヘイッシュウィリ・ルースダン、ジーン タナンゴナン、ベンジャブール アナス、安藤 健太、井上 勝六、王 然、岡田 徳子、岡本 修身、岡本 徳子、岩沼 享子、岩田 忠久、岩田 忠雄、岩田 典子、吉村 一良、琴浦 良彦、金 盛彦、窪田 弘、後藤 隆騎、香月 桂子、今西 二郎、細川 治、坂野 泰治、山下 進一、山本 雅英、山本 慶一、山本 峰丸、四方 八州男、市川 由紀、児玉 靖司、寺本 美智子、手塚 修司、秋津 元輝、十河 智江子、松成 亮太、松成 亮太、松田 敬一、森 和代、森棟 公夫、西本 太観、石原 ゆき子、千葉 絢子、川野 家
--

稔、川野 家稔、船津 雅夫、前上 英二、前川 晃一、倉田 麻里、村松 拓、
村松 拓、村松 拓、村田 翼夫、多田 譲治、大菅 克知、大槻 憲弘、大畑
京子、谷 幸治、竹田 洋子、仲谷 正博、長谷 博友、田森 行男、田中 徳
壽、渡邊 恵子、土居 貞往、湯 夢佳、奈倉 道隆、内海 博司、内海 仁美、
内藤 義弘、福本 和久、片山 一道、木下 研一、木葉 丈司、野田 和伸、薮
下 義文、薮田 定男、鈴木 松郎、鈴木 緑、和田 浩一、澤田 正樹、眞木
恵子、齊藤 眞弘

合計 2,331,156 円

(2) 補助金・援助金

補助金の種類	補 助 者	補助金額	備 考
該当なし			

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。(円)

区 分	項 目	金 額
基本金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑 田、 洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、 平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、 乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000